

# 平成 29 年度 農作物（水稲）モニター事業調査結果(第 3 回)

本県NOSA Iでは、水稲の生育状況を調査し、気象・病虫害発生状況などの基礎情報を継続的に観測して、県内水稲の作柄や被害発生状況の把握に務めています。

## 1. 水稲の生育および病虫害発生調査結果

### 1) 水戸市の調査結果

調査場所	品種	移植日	調査日
水戸市	コシヒカリ	5月14日	7月21日

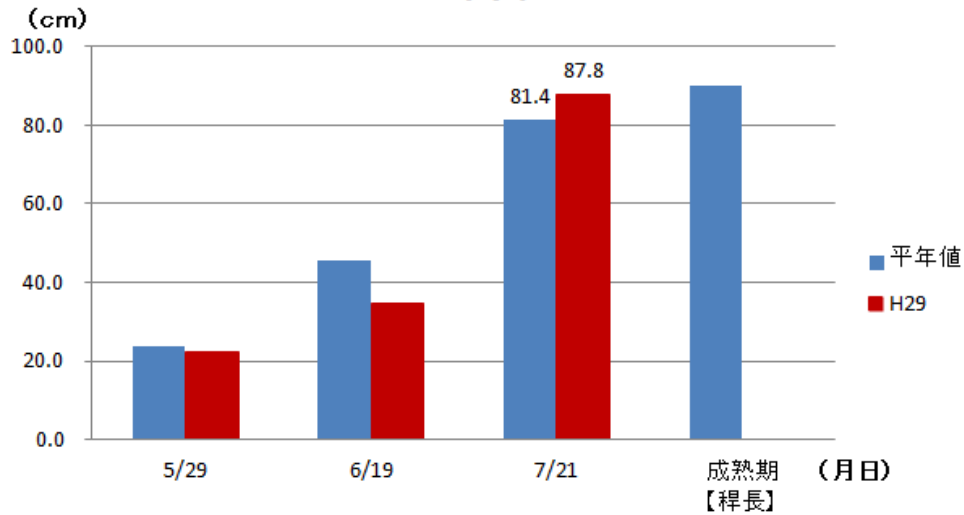


↑ 圃場の様子



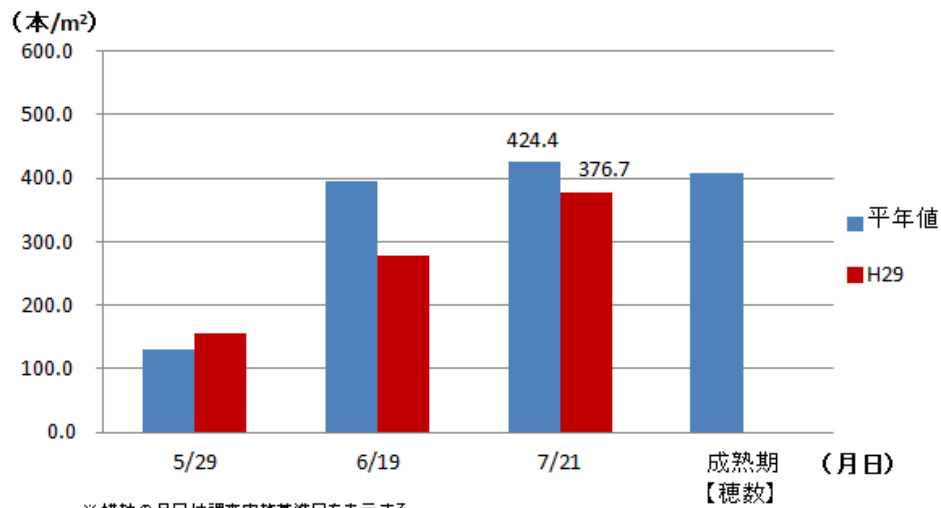
↑ 捕獲したクモヘリカメムシ

## 草丈



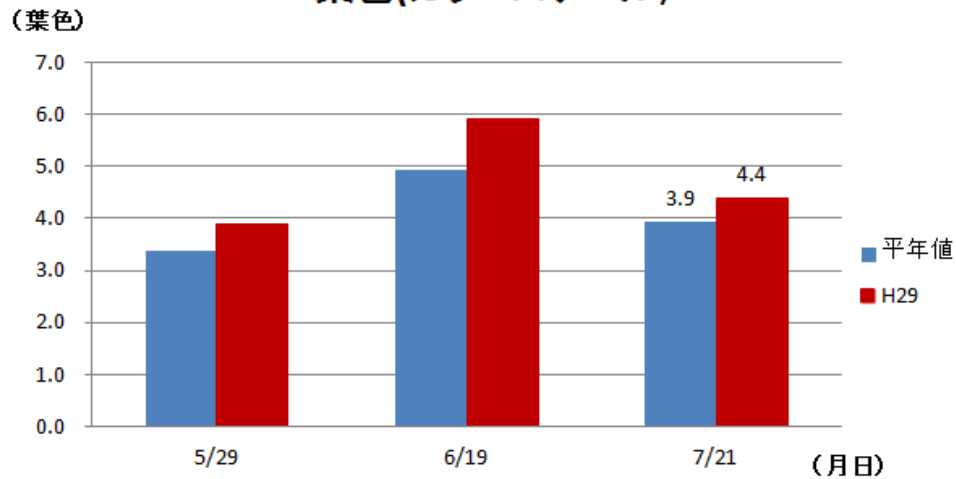
※ 横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

## 茎数



※ 横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

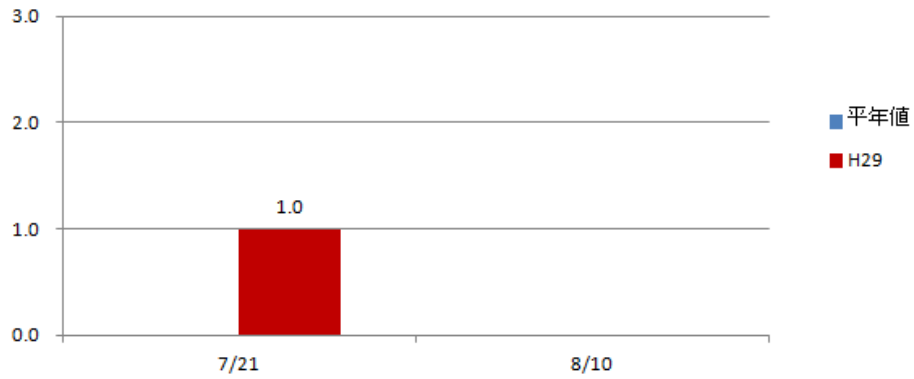
## 葉色(カラスケール)



※ 横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

## カメムシ類

(虫数)

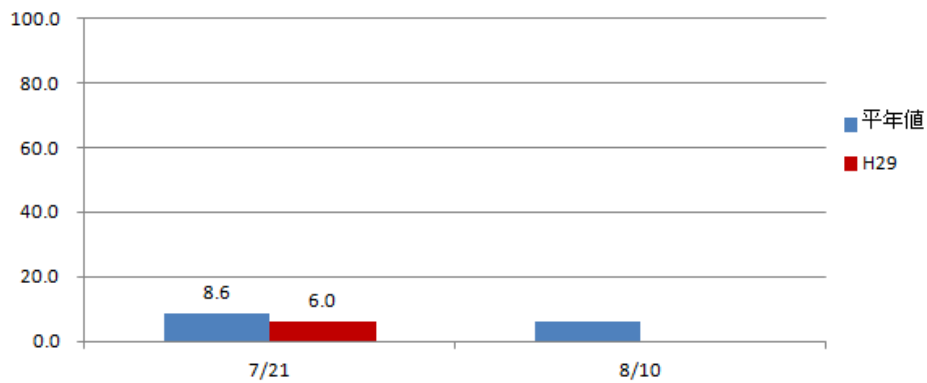


※横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

(月日)

## 葉いもち病

(発病度)

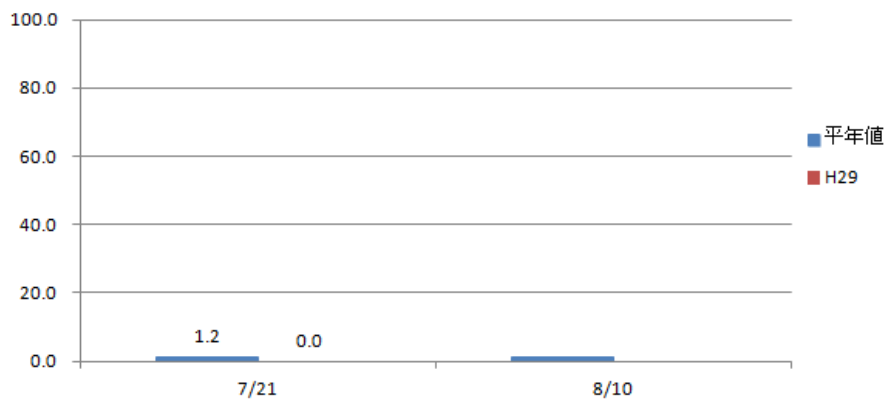


※横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

(月日)

## 紋枯病

(発病度)



※横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

(月日)

○被害度は該当虫による葉の食害の度合い

○平年値は平成24～28年の5年間の平均値

#### ○生育調査結果について

調査圃場において、平年値（過去 5 年間の平均値）と比較すると、草丈はやや高く、莖数はやや少なく、葉色はやや濃くなっています。県内コシヒカリの今年（7月20日現在）の傾向は、草丈は平年並～高く、莖数は平年並～少なく、葉色は平年並～淡いとなっています。

間断かんがいを行い、根の活力維持に努めてください。特に出穂後は田面が乾く前に入水する間断かんがいを繰り返し、稲に水分ストレスがかからないように注意しましょう。

#### ○病害虫発生調査結果について

調査圃場において、カメムシ類の発生が少程度みられますので、出穂期に向けて本田の観察をお願いします。県内のカメムシの発生時期・発生量は平年並となっていますが、今後の天候次第では水田での虫数が急に増える可能性もありますので注意してください。

斑点米カメムシ類の耕種的防除として、畦畔のイネ科雑草が穂をつけないよう除草することが有効ですが、既に水稻の出穂間際になっていますので、水田内への追い込みを避けるため、除草作業は控えましょう。

穂揃期に成虫を確認した場合や、出穂後 10～15 日頃に幼虫を確認した場合には防除を行ってください。

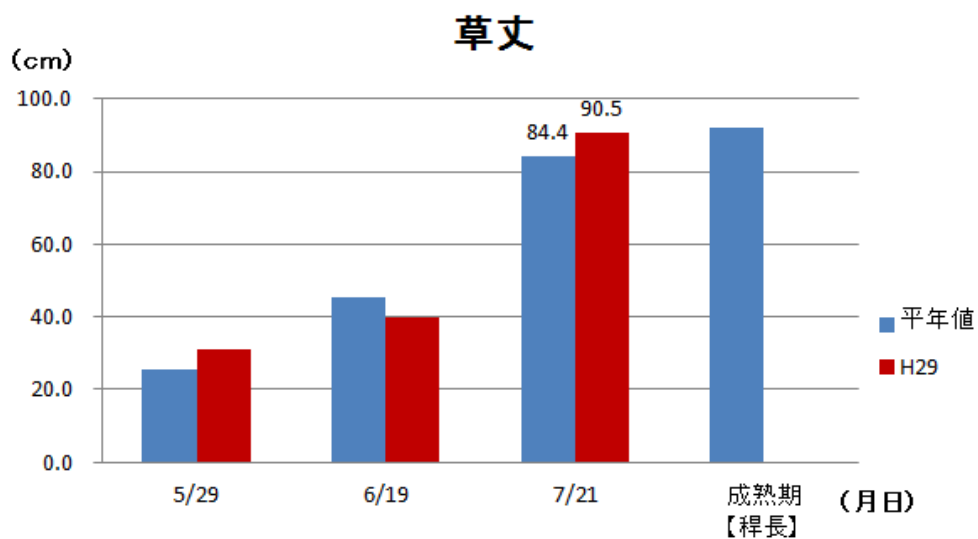
調査圃場において、葉いもち病の発生が少程度みられています。県内の発生状況は平年並となっています。今後、葉いもち病の上位葉への進展がみられなければ問題ないと思われませんが引き続き観察をお願いします。上位葉への進展が見られる場合は、直ちに防除を行ってください。

## 2) 茨城町の調査結果

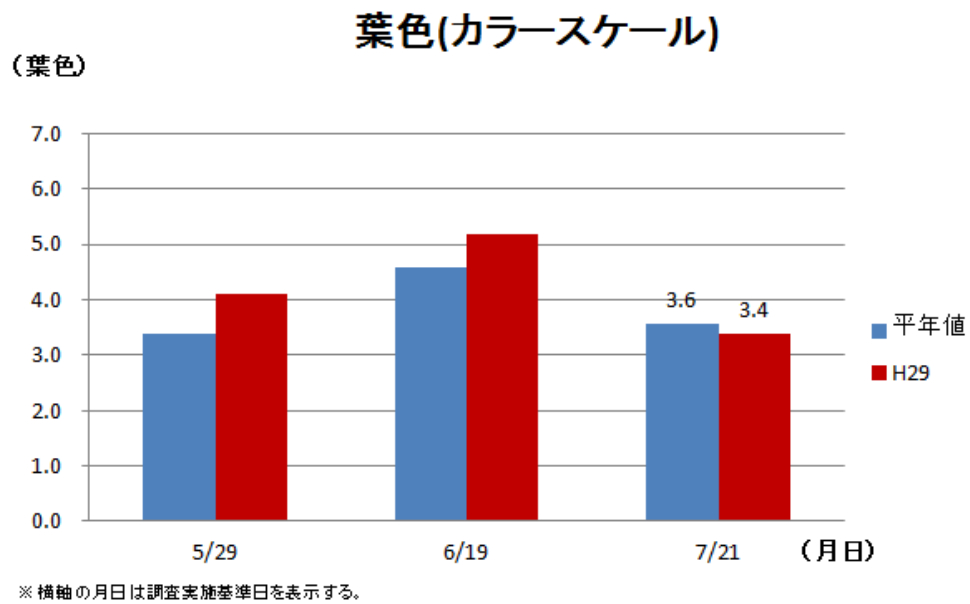
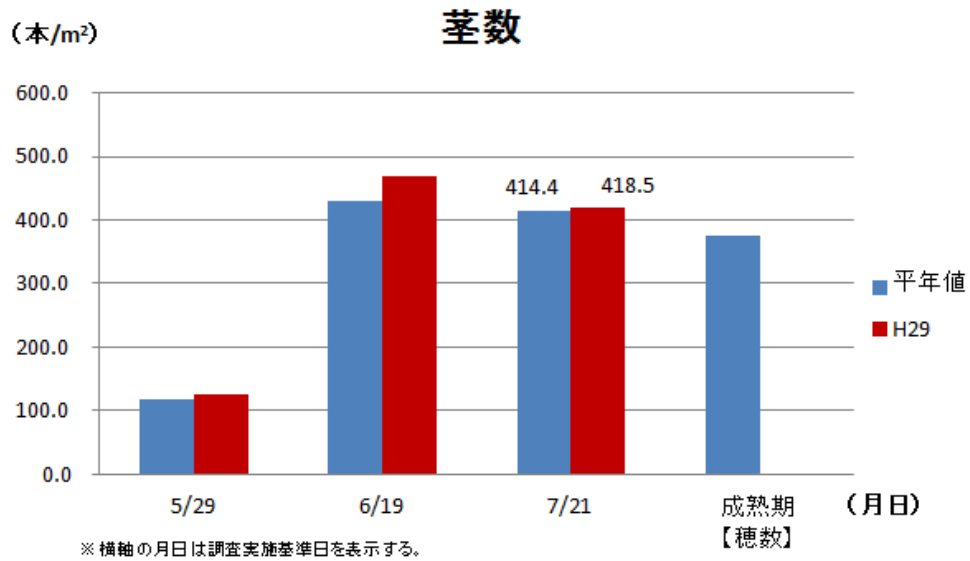
調査場所	品種	移植日	調査日
茨城町	コシヒカリ	5月14日	7月21日



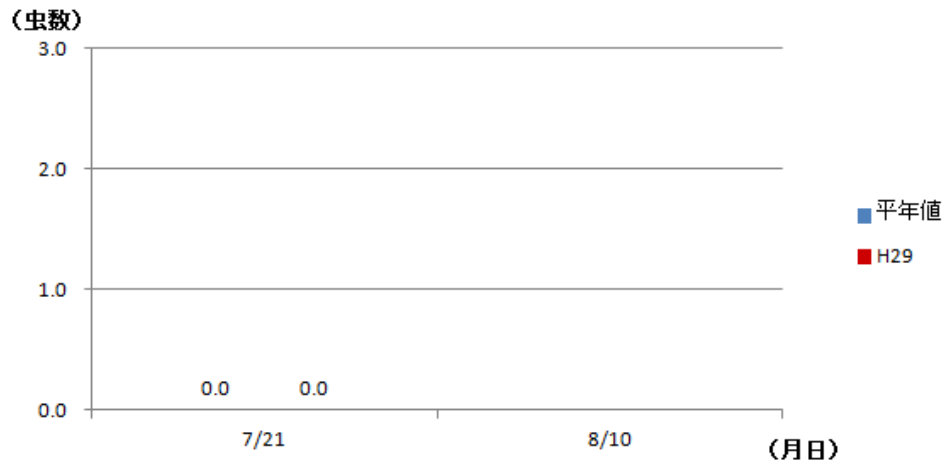
↑ 圃場の様子



※ 横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

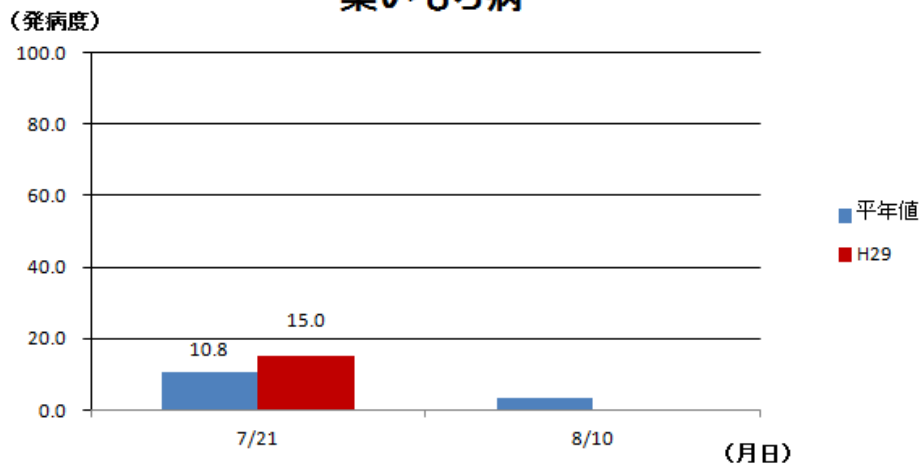


## カメムシ類



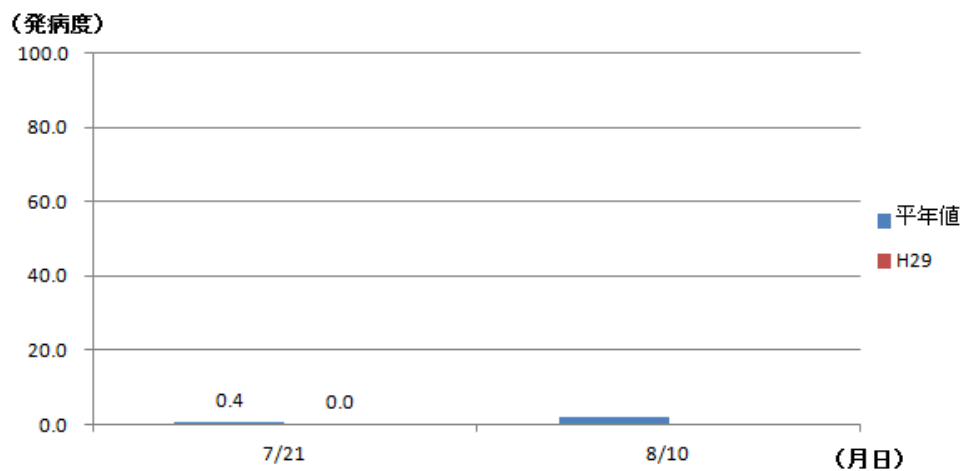
※ 横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

## 葉いもち病



※ 横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

## 紋枯病



※ 横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

- 被害度は該当虫による葉の食害の度合い
- 平年値は平成 24～28 年の 5 年間の平均値

### ○生育調査結果について

調査圃場において、平年値（過去5年間の平均値）と比較すると、草丈はやや高く、莖数、葉色はともに平年並となっています。県内コシヒカリの今年（7月20日現在）の傾向は、草丈は平年並～高く、莖数は平年並～少なく、葉色は平年並～淡いとなっています。

間断かんがいをを行い、根の活力維持に努めてください。特に出穂後は田面が乾く前に入水する間断かんがいを繰り返し、稲に水分ストレスがかからないように注意しましょう。

### ○病害虫発生調査結果について

調査圃場において、カメムシ類の発生はみられていませんが、本田の観察をお願いします。県内におけるカメムシの発生時期・発生量は平年並となっていますが、今後の天候次第では水田での虫数が急に増える可能性もありますので注意してください。

斑点米カメムシ類の耕種的防除として、畦畔のイネ科雑草が穂をつけないよう除草することが有効ですが、既に水稻の出穂間際になっていますので、水田内への追い込みを避けるため、除草作業は控えましょう。

穂揃期に成虫を確認した場合や、出穂後10～15日頃に幼虫を確認した場合には防除を行ってください。

調査圃場において、葉いもち病の発生が少程度みられています。県内の発生状況は平年並となっています。今後、葉いもち病の上位葉への進展がみられなければ問題ないと思われませんが、引き続き観察をお願いします。上位葉への進展が見られる場合は、直ちに防除を行ってください。

## 2. 次回調査予定日

8月10日